

森のテクノ

NO.95

春号

2022.4.15



目次

●「森林整備事業」の推進 いの町長 池田 牧子	1	●「はじめての森林土木」 高知県中央東林業事務所 森林土木課 技師 笹岡 亮太	9
●令和4年度 県人事異動による 主要幹部のプロフィール	2	●テクノ ア・ラ・カルト 一名句・名言に潜む「テクノ」－ (一社) 高知県山林協会 技術専門官 長澤 佳暁	11
●令和4年度 林業振興・環境部 新しい組織と体制	4	●県立甫喜ヶ峰森林公園から 指定管理者 (一社) 高知県山林協会 主任 黒津 光世	13
●令和4年度 林業振興・環境部の主要施策	5	●動 向	15
●令和4年度 林業振興・環境部主要事業体系	6		
●南海トラフ地震の津波火災 －東北大震災と宝永南海地震から読み解く－ 高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター 客員教授 岡村 真	7		



「森林整備事業」の推進

いの町長 池田 牧子

いの町は高知県の中央部に位置し、総面積は 470.97km² あり、高知県の約 6.6% を占めております。地形は南北に長く、平地と丘陵地が広がる東南部を除くとほぼ全域が山地で、森林面積は 423.34km² と町全体の約 90% を占めております。

北部は愛媛県と接し、1,800m 級の山々が連なり、町中心部との標高差も 600m 以上もあり、変化に富んでいる自然環境も特徴で、石鎚国定公園、工石山陣ヶ森県立自然公園などに指定されている豊かな森林、また奇跡の清流仁淀川や四国三郎吉野川水系の源流を有しており、各所に優れた自然環境・景観を備えております。

この恵まれた自然環境のなかで、本町の主たる産業の一つである林業においては、戦後、先人たちが守り育ててきた人工林の多くが成熟し、本格的な利用期を迎えている現在、「伐って、使って、植える」という持続的なサイクルで活用し、森林・林業・木材産業の成長産業化につなげていくことが重要と考えております。令和 3 年 6 月に閣議決定された「森林・林業基本計画」では、森林の状況に合わせて幹線を含む林道と森林作業道を適切に組み合わせた路網整備の推進、路網の強靱化、長寿命化を図ることとされております。

本町においても豊富な人工林資源を有効に利活用するため、森林施業の効率化や労働強度の低減等に欠かせない林道を中心とした林内路網の充実に向けた取組を加速化しているところです。

現在、本町では、県営施行による開設事業が 3 路線、補助事業においては開設 2 路線、改良 2 路線、舗装 2 路線を実施しており、更に令和 4 年度からは県営施行による開設事業が 1 路線追加され、林内路網整備の充実に向け取組を強化しております。

そして、本町は令和 4 年 3 月 7 日にゼロカーボンシティ宣言を行ったところであり、林内路網の充実には 2050 カーボンニュートラルの実現に向けての最重要施策と位置付けており、高知県をはじめとする関係機関の皆様、そして林業経営体、地域の皆様のご指導ご協力のもと、取組を進めてまいります。

また、令和元年度から譲与が開始された森林環境譲与税を有効かつ積極的に活用し、再造林から主伐までの本町独自の補助事業の拡充や里山林再生支援、林業労働力育成確保支援などの新たな取組とともに、森林の有する多面的機能の維持・増進を図り、「豊かな自然と心に出会えるまち・いの」を後世の子どもたちに引き継いでまいります。



令和4年度 県人事異動による主要幹部のプロフィール

林業振興・環境部長

とよ なが だい ご
豊 永 大 五



大豊町出身
1964年生
中央大学卒
1989年 高知県庁入庁
2020年 林業振興・環境部副部長(総括)
趣味：旅行、キャンプ
座右の銘：特になし

林業振興・環境部副部長(総括)

む とう のぶ ゆき
武 藤 信 之



岐阜県出身
1971年生
プリティッシュ・コロンビア大・院(カナダ)修了
1996年 林野庁入庁
2021年 林業振興・環境部副部長
趣味：スポーツ観戦
座右の銘：意思あるところに道は開ける

林業振興・環境部副部長・兼林業振興・環境部林業人材育成推進監

たに わき かつ ひさ
谷 脇 勝 久



中土佐町出身
1963年生
高知農業高等学校卒
1982年 高知県庁入庁
2020年 木材増産推進課長
趣味：散歩
座右の銘：前へ！

林業環境政策課長

たけ ざき まこと
竹 崎 誠



四万十町出身
1967年生
高知大学卒
1989年 高知県庁入庁
2021年 木材産業振興課長
趣味：バドミントン、ゴルフ
座右の銘：特になし

森づくり推進課副参事

す わ たか のぶ
諏 訪 貴 信



大阪府出身
1963年生
高知大学卒
1986年 高知県庁入庁
2020年 森づくり推進課課長補佐
趣味：水泳
座右の銘：継続は力なり

木材増産推進課長

なか や たかし
中 屋 貴



香南市出身
1966年生
高知大学卒
1988年 高知県庁入庁
2020年 木材増産推進課課長補佐
趣味：ゴルフ
座右の銘：特になし

木材産業振興課長

おお いし なお
大 石 尚



田野町出身
1965 年生
高知大学卒
1988 年 高知県庁入庁
2020 年 森づくり推進課副参事
趣 味：音楽鑑賞
座右の銘：マイペース

治山林道課長

まつ お ふみ あき
松 尾 文 昭



津野町出身
1963 年生
高知大学卒
1986 年 高知県庁入庁
2021 年 自然共生課長
趣 味：テニス
座右の銘：特になし

環境計画推進課企画監
(カーボンニュートラル推進担当)

やま もと ち か こ
山 本 千香子



高知市出身
1962 年生
高知工科大学起業家コース修士課程修了
1986 年 高知県庁入庁
2019 年 商工政策課副参事
趣 味：旅行、食べ歩き
座右の銘：土佐酒で乾杯！

自然共生課長

こう の かず ひろ
河 野 和 弘



大豊町出身
1967 年生
高知西高等学校卒
1986 年 高知県庁入庁
2021 年 環境計画推進課企画監
(カーボンニュートラル推進担当)
趣 味：釣り
座右の銘：特になし

中央東林業事務所長

み よし かず き
三 好 一 樹



兵庫県出身
1963 年生
高知大学卒
1991 年 高知県庁入庁
2021 年 嶺北林業振興事務所長
趣 味：アニメ、鉄道、献血
座右の銘：ガッツで行こうぜ！

中央東林業事務所
嶺北林業振興事務所長

いわ はら たか ゆき
岩 原 孝 之



高知市出身
1965 年生
高知大学卒
1990 年 高知県庁入庁
2020 年 嶺北林業振興事務所次長
趣 味：スポーツ観戦
座右の銘：特になし

中央西林業事務所長

なか じま かず ひろ
中 島 和 宏



高知市出身
1963 年生
高知大学卒
1986 年 高知県庁入庁
2021 年 須崎林業事務所長
趣 味：テニス、散歩
座右の銘：特になし

須崎林業事務所長

たか はし ひろ あき
高 橋 宏 明



いの町出身
1967 年生
高知大学卒
1989 年 高知県庁入庁
2021 年 林業環境政策課課長補佐
(木の文化担当)
趣 味：特になし
座右の銘：笑う門には福来る

令和4年度 林業振興・環境部 新しい組織と体制

林業振興・環境部	部長	豊永 大五
	副部長（総括）	武藤 信之
	副部長 兼 林業人材育成推進監	谷脇 勝久
	参事 ※エコサイクル高知へ派遣	植田 演真
林業環境政策課	課長	竹崎 誠
	課長補佐	柏井 伸二
	課長補佐（木の文化担当）	大野 幸一
	チーフ（総務担当）	福島 美映
	チーフ（企画担当）	上田 芳也
	主任（4種）※三原村へ派遣	岩原 世治
森づくり推進課	課長	大黒 学
	課長補佐	遠山 寿起
	課長補佐 兼 チーフ（計画・森林経営管理推進担当）	工藤 俊哉
	チーフ（公営林担当）	塩見 隆司
	チーフ（担い手対策担当）	東 博文
	副参事 ※高知県森林整備公社へ派遣	諏訪 貴信
木材増産推進課	課長	中屋 貴
	課長補佐	遠山 純人
	課長補佐（スマート林業推進担当）	大野 孝元
	チーフ（造林・間伐担当）	山崎 洋
	チーフ（原木増産担当）	出口 和樹
木材産業振興課	課長	大石 尚
	企画監（販売拡大担当）	中城 秀樹
	課長補佐	澤田 修一
	課長補佐（販路開拓・関西戦略担当）	小野田 勝
	専門企画員（特用林産担当）	荒尾 正剛
	チーフ（加工促進担当）	谷本 貴則
	チーフ（需要拡大担当）	種田 光伸
	主任（CLT 推進担当）	曾我 康
	チーフ（販売促進担当）	福田 誠
治山林道課	課長	松尾 文昭
	課長補佐	吉門 正広
	技査	吉村 仁志
	チーフ（治山担当）	北代 修志
	チーフ（林道担当）	伊勢脇信一
環境計画推進課	課長	井上 隆雄
	企画監（カーボンニュートラル推進担当）	山本千香子
	課長補佐	森田 雄一
	チーフ（企画調整担当）	中橋 一真
自然共生課	課長	河野 和弘
	課長補佐	和田こずえ
	課長補佐 兼 チーフ（共生社会担当）	山内 潤子
	チーフ（自然保護・公園担当）	岡田 宏文
	チーフ（牧野植物園整備担当）	山本 史
環境対策課	課長	杉本 幸三
	課長補佐	荒尾 真砂
	課長補佐（適正処理担当）	西岡 秀治
	チーフ（計画推進・一般廃棄物担当）	藤本 直人
	チーフ（新処分場担当）	川上 修一
	チーフ（産業廃棄物担当）	大井 健睦
	チーフ（環境・再生利用担当）	甲藤 広一

令和4年4月1日付人事異動

森林技術センター	所長	岩原 暢之
	次長 兼 総務課長	中川 範之
	総務課チーフ	西谷 照代
	企画支援課長 兼 チーフ	嶋崎 雄史
	森林経営課長	山崎 敏彦
	チーフ	藤本 浩平
	資源利用課長	沖 公友
	チーフ（マテリアル利用担当）	盛田 貴雄
	チーフ（エネルギー利用担当）	山崎 真
安芸林業事務所	所長	山中 秀直
	次長	松田 日和
	チーフ（総務担当）	野村真由美
	振興課長	川久保宜幸
	チーフ（振興担当）	三宅 三賀
	チーフ（増産担当）	梶原 規弘
	森林土木課長	濱田 央
	チーフ（第一地区担当）	遠山 正男
	チーフ（第二地区担当）	廣末 一
中央東林業事務所	所長	三好 一樹
	次長	日田 朝巳
	チーフ（総務担当）	前田 和香
	振興課長	公文 敬介
	チーフ（振興担当）	深田 扶美
	チーフ（増産担当）	高橋 聡文
	森林土木課長	西村 忠浩
	チーフ（第一地区担当）	長野 国博
	チーフ（第二地区担当）	内塚 進
	チーフ（第三地区担当）	山内 智弘
嶺北林業振興事務所	所長	岩原 孝之
	次長	坂田 修一
	チーフ（振興担当）	河野 高士
	チーフ（増産担当）	東 英史
中央西林業事務所	所長	中島 和宏
	次長	河淵 昭人
	チーフ（総務担当）	山崎 晶之
	振興課長	前田 悟
	チーフ（振興担当）	矢野 智久
	チーフ（増産担当）	中川由貴男
	森林土木第一課長	貝川 陽一
	チーフ（第一地区担当）	尾崎 崇
	チーフ（第二地区担当）	久保 博司
	森林土木第二課長 兼 チーフ（第四地区担当）	首藤 隆
須崎林業事務所	チーフ（第三地区担当）	市川 健二
	所長	高橋 宏明
	次長	藤 敏和
	チーフ（総務担当）	浅井 雅之
幡多林業事務所	振興課長	乃一 広志
	チーフ（振興担当）	政岡 尚志
	チーフ（増産担当）	神尾 昌延
	森林土木課長	遠山 浩之
	チーフ	東 加律彦
林業大学校	所長	戸田 篤
	次長	山下 博
	チーフ（総務担当）	吉岡 満美
	振興課長	宇久 真司
	チーフ（振興担当）	福本 和睦
	チーフ（増産担当）	板井 拓司
	森林土木課長	池田 清
	チーフ	片岡正三郎
林業大学校	副校長	金子 尚公
	事務長 兼 学生課長	野町 光宏
	教務課長	森本 公司
	チーフ（基礎課程担当）	山口 達也
	主任教授（森林管理担当）	弘瀬 健一
	主任教授（林業技術担当）	小路口 聡
	主任教授（木造設計担当）	石本 桜子

令和4年度 林業振興・環境部の主要施策

林業振興・環境部は、林業分野、環境分野における施策を一体的に推進し、産業振興や地域活性化を図るとともに、2050年カーボンニュートラルの実現を目指します。

このため、「第4期高知県産業振興計画」（計画期間：R2～R5）や「高知県環境基本計画第五次計画」（計画期間：R3～R7）、「高知県地球温暖化対策実行計画」（計画期間：H29～R12）、「高知県新エネルギービジョン」（計画期間：R3～R7）に加え、令和4年3月に策定した「高知県脱炭素社会推進アクションプラン」（計画期間：R4～R5）を着実に推進します。

まず、林業分野では、第4期高知県産業振興計画に基づき、①原木生産の拡大、②木材産業のイノベーション、③木材利用の拡大（建築士等への戦略的アプローチ）、④担い手の育成・確保の4つの戦略の柱により施策を進めます。その際、新型コロナウイルス感染症の影響及び、輸入材の逼迫による国産材需要の高まりへの対応として、生産体制の強化、事業地の確保や再造林の推進の取組とあわせ、関係者が連携したサプライチェーン強化の取組を加速化します。

具体的には、①の「原木生産の拡大」では、ICT等先端技術を活用した林業機械の実証及び新たな作業システムの導入支援等により、労働生産性の向上を促進するとともに、皆伐と再造林を一体として推進し、森林資源の循環利用に向けた地域の事業体の連携強化などに取り組みます。加えて、デジタル化された高度な森林資源情報等の共有化を進め、さらなる産業の集約化等を目指すなど、スマート林業の取組を推進します。

②の「木材産業のイノベーション」では、製材品の生産に必要な原木調達の確実性を高めるための協定取引や、生産の効率化等に繋がる事業者の共同化・協業化の取組を促進することなどにより、輸入材の不足により高まった国産材需要に応えるための県産材の供給能力の強化を進めます。併せて、地域におけるSCM（サプライチェーンマネジメント）を構築する中で、需要情報の共有化と流通の最適化の実証に取り組みます。

③の「木材利用の拡大（建築士等への戦略的アプローチ）」では、木造建築物を「環境不動産」として公共的な価値を評価し、建築を促進するための施策を検討するとともに、非住宅木造建築物の設計・建築（木材代、プレカット加工費）への支援などにより、木造建築のメリットや設計・施工に関する情報の提供・普及及び低コスト化等につなげます。また、関西圏における外商活動の強化に向けて、大阪市に新たな県産材の情報発信・商談拠点を開設し、木材利用の拡大を図ります。

④の「担い手の育成・確保」では、協定締結校との連携等による林業大学校の魅力化や市町村と連携した新たな研修制度の創設とともに、新たに配置する「森のしごとコンシェルジュ」による就業希望者のニーズに合わせたきめ細かな対応を通じて、担い手確保対策を強化します。また、林業就業者の定着率の向上などに向け、林業事業体の経営基盤の強化と労働環境の改善を図るため、事業戦略の策定やその実践支援に取り組みます。

こうした取組のほか、「県民一人ひとりがみんなで森や山を守る」を目的に創設した森林環境税（県税）の活用については、その趣旨に基づき「森林環境の保全を進める事業」、「県民の森林への理解と関わりを深め広げる事業」を実施するとともに、令和5年度以降の森林環境税の在り方の検討を行います。一方、森林環境譲与税（国税：県譲与分）については、広域的な市町村への支援や、担い手の育成・確保対策の取組に活用します。

さらに、気候変動に伴い激化している山地災害からの早期復旧や、県民の安全・安心な暮らしを守るための事前防災・減災対策には、国の「防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策」等を活用してしっかりと取り組みます。

次に、環境分野では、気候変動対策やSDGsなどの考え方を取り入れ策定した「高知県環境基本計画第五次計画」に掲げる、①地球温暖化対策が進んだ脱炭素社会、②環境への負荷の少ない循環型社会、③自然環境の保全が図られた自然共生社会を

指し、県民や事業者、市町村等の各主体の参画と協働のもと、取組を進めます。

①の「地球温暖化対策が進んだ脱炭素社会」の実現に向けては、「高知県脱炭素社会推進アクションプラン」に基づき、本県における「2050年カーボンニュートラルの実現」を目指すとともに、「経済と環境の好循環」の創出に向けて3つの柱により取組を推進します。

「柱1 CO²の削減に向けた取組の推進」としては、省エネルギーを推進し、豊富な自然資源を生かした再生可能エネルギーの導入を進めるとともに、森林資源等を最大限に活用してCO²の吸収源対策を強化します。また、CLTの普及や県産材の利用促進等を通じて「都市の脱炭素化」を進めます。

「柱2 グリーン化関連産業の育成」としては、本県の特徴を生かした「グリーン化（脱炭素化を目指した取組）」による持続可能な産業振興を推進します。

「柱3 SDGsを意識したオール高知での取組の推進」としては、SDGsを意識しながら、県内全域の脱炭素化に向けて、県民、事業者、行政等が丸となったオール高知での取組を展開します。

②の「環境への負荷の少ない循環型社会」では、第5期高知県廃棄物処理計画に基づき、廃棄物の減量化や再生利用の推進等に取り組みます。また、災害廃棄物処理対策は、災害廃棄物処理広域ブロック協議会の運営支援など、災害発生時における市町村間の相互支援の仕組みづくりに向けて、取組の充実強化を図ります。

産業廃棄物の適正処理は、排出事業者や許可業者に対する立入検査や廃棄物監視員による巡回監視活動を継続的に実施するとともに、関係団体と連携協力して、廃棄物処理に関する知識の普及・啓発に取り組みます。

また、新たな管理型最終処分場の整備については、佐川町加茂を建設予定地として決定し、令和元年7月に県と佐川町で「確認書」を締結して以降、測量や設計等の「施設整備に向けた調査」や長竹川の増水対策等の「周辺安全対策」の取組などを進めてきました。今後は、令和7年度の供用開始を目指して、施設の本体工事を着実に進めるほか、引き続き「周辺安全対策」を実施するとともに、佐川町が実施する「地域振興策」への支援に取り組みます。これらの取組過程等においては、節目節目でその状況を住民の皆様様に丁寧に説明し、ご意見をいただきながら進めてまいります。

さらに、県民の生活環境の保全と健康を守るため、大気や水環境の常時監視、工場・事業場における排出ガスや排水の規制を継続し、環境汚染を防止するとともに、危機事象発生時にも迅速かつ適切な対応を可能にするための人材育成や機器整備に取り組みます。加えて、環境美化の推進に向け、関係団体との連携協力関係の拡充や美化に対する意識の啓発に取り組みます。

③の「自然環境の保全が図られた自然共生社会」では、生物多様性こうち戦略の取組の推進、希少野生動植物の保護、自然公園の適正管理に取り組みます。

また、牧野植物園では、園の課題や利用者のニーズを踏まえ、「世界に誇れる総合植物園」となるよう策定した「磨き上げ整備基本構想」に基づき、新しい研究棟及び周辺エリアの整備とともに、植物園のバックヤードである長江圃場の高台移転に取り組みます。

さらに、清流の保全と活用では、物部川及び仁淀川の清流保全計画の推進に向けて具体的な取組を進めるとともに、四万十川条例に基づき、四万十川の環境保全と流域の振興に係る総合対策を行います。

最後に、新型コロナウイルス感染症による林業・木材産業分野や環境関連分野への影響については、最新の状況の把握に努めるとともに、随時、必要な対策を行ってまいります。

令和4年度 林業振興・環境部主要事業体系

※事業の表示方法（**拡**：拡充）

R4当初予算額

R3当初予算額

（単位：千円）

原木生産の 拡 大	労働生産性の向上による事業地の拡大				
		林業労働力確保支援センター事業（雇用管理改善推進アドバイザー業務委託料）	9,117	9,058	森づくり推進課
	拡	木材安定供給推進事業	307,326	341,901	木材増産推進課
	拡	緊急間伐総合支援事業	65,000	68,000	木材増産推進課
		原木増産推進事業（自伐林家等林業機械レンタル等）	5,193	17,580	木材増産推進課
		林道事業	2,079,828	1,691,430	治山林道課
	森林資源の循環利用の促進				
	拡	森林資源再生支援事業	124,295	107,098	木材増産推進課
		優良種苗確保事業	5,192	11,019	木材増産推進課
		原木増産推進事業（作業道等整備）	24,741	41,000	木材増産推進課
	施業集約化の強化				
		森林整備地域活動支援事業	35,382	38,065	森づくり推進課
		森林経営管理制度推進事業	20,032	20,871	森づくり推進課
木材産業の イノベーション	拡	森林計画事業	107,158	196,815	森づくり推進課
		造林事業	1,107,612	1,108,642	木材増産推進課
		みどりの環境整備支援事業	17,880	29,106	木材増産推進課
		森の工場活性化対策事業	129,561	129,599	木材増産推進課
	高品質な製材品の供給体制の整備				
	拡	県産材加工力強化事業（県産材加工力強化事業費補助金）	45,570	22,200	木材産業振興課
	製材事業体の生産・経営力の強化				
		県産材加工力強化事業（事業戦略実践支援業務委託料等）	18,370	26,877	木材産業振興課
	木材・木製品の高付加価値化の推進（A材の活用） プラットホームづくり等による地産・外商体制の強化				
		県産材外商推進対策事業（県産材需要拡大サポート事業委託料）	59,873	59,951	木材産業振興課
	森の資源を余すことなく活用				
		木質資源利用促進事業	27,303	44,124	木材産業振興課
木材利用の拡大 （建築士等への 戦略的アプローチ）	木造建築に精通した建築士等の育成				
	拡	CLT等木造建築促進事業（非住宅建築物木造化促進事業費補助金）	31,500	35,971	木材産業振興課
	施主の木材利用に関する理解の醸成				
		CLT等木造建築促進事業（CLT普及促進事業費補助金等）	12,573	13,295	木材産業振興課
		木の香るまちづくり推進事業	45,000	45,000	木材産業振興課
	マーケティング戦略の強化				
		こうちの木の住まいづくり助成事業	106,770	116,800	木材産業振興課
		こうちの木の住まい普及推進事業	2,561	2,561	木材産業振興課
		県産材外商推進対策事業	100,841	99,636	木材産業振興課
		土佐材販売力抜本強化事業	15,291	10,993	木材産業振興課
	拡	県産材輸出促進事業	9,350	2,000	木材産業振興課
		オリンピック・パラリンピック東京大会県産材活用事業	16,919	2,968	木材産業振興課
		災害対応木材供給体制構築事業	8,343	3,357	木材産業振興課
担い手の 育成・確保	林業大学の充実・強化				
		林業大学運営	61,078	62,212	森づくり推進課
		林業大学研修事業	210,724	226,706	森づくり推進課
	きめ細かな担い手育成・確保の強化				
	拡	林業労働力確保支援センター事業（林業労働力確保支援センター事業費補助金）	38,454	30,127	森づくり推進課
		森林整備担い手確保育成対策事業（特用林産業新規就業者支援事業費補助金）	21,450	27,450	森づくり推進課
	拡	小規模林業推進事業	15,591	15,691	森づくり推進課
	林業事業体の経営基盤の強化				
		森林整備担い手確保育成対策事業（事業戦略策定等支援業務委託料、事業戦略実践支援業務委託料）	41,250	27,500	森づくり推進課
中山間対策 （特用林産の振興）	拡	特用林産振興対策事業	11,003	12,992	木材産業振興課
		地域林業総合支援事業	12,376	10,327	木材産業振興課
豪雨災害・ 国土強靱化対策		治山事業	3,371,791	3,462,900	治山林道課
		林道災害復旧事業	18,500	202,500	治山林道課
		林地災害復旧事業	74,989	74,989	治山林道課
		造林事業（再掲）	1,107,612	1,108,642	木材増産推進課
地球温暖化 対策が進んだ 脱炭素社会 づくり	拡	新エネルギー導入促進事業	157,926	20,484	環境計画推進課
	拡	地球温暖化対策推進事業	31,115	11,741	環境計画推進課
	拡	地球温暖化防止県民会議活動推進事業	16,657	20,397	環境計画推進課
		協働の森づくり事業	7,465	9,947	林業環境政策課
		オフセット・クレジット推進事業	10,418	9,595	自然共生課
		環境活動支援センター事業	17,597	17,500	自然共生課
		豊かな環境づくり総合支援事業	4,081	4,081	自然共生課
環境への負荷の 少ない循環型 社会づくり	廃棄物の適正処理の推進				
		廃棄物処理対策事業	689,034	310,419	環境対策課
	生活環境の保全				
		環境保全事業	87,556	112,085	環境対策課
		環境美化推進事業	1,972	2,029	環境対策課
	3Rの推進				
	リサイクル製品普及促進事業	635	618	環境対策課	
自然環境の 保全が図られた 自然共生社会 づくり	自然環境の保全				
	拡	自然公園等施設整備事業	193,343	99,132	自然共生課
		自然公園等管理	18,466	21,340	自然共生課
	拡	希少動植物保護対策事業	31,067	45,409	自然共生課
	拡	牧野植物園管理運営	1,592,415	721,402	自然共生課
	清流の保全と活用				
		四万十川総合対策事業	16,567	14,299	自然共生課
		清流保全推進事業	904	902	自然共生課

南海トラフ地震の津波火災

－東北大震災と宝永南海地震から読み解く－

高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター 客員教授 岡村 眞

はじめに

前回の昭和 21 年南海地震 (M8.0) の巨大地震から 76 年が経過した。1707 年 (M8.6) の宝永南海地震では高知県内で多くの津波火災の記録が残る。

一方、11 年前の東北地方太平洋沖地震に際しても大規模津波火災が発生し、津波とともに火災は沿岸都市に拡大した。その後の検証では津波火災の実態が見えて来た。その結果を参考に、次の南海トラフ地震で同様の火災は県下のどこで起こりそうか、その発生メカニズムから考えてみる。

1. 津波火災

－東北地方沿岸で発生した津波火災と避難ルート選択のヒント－

2011 年東北地方太平洋沖地震から 3 月 11 日で 11 年が経過した。あの日の 11 日の朝、2,500 名を超える行方不明者は、「行ってらっしゃい」「行きます」の朝の会話を残したままである。一方、西南日本とくに四国地域で発生する南海トラフ地震は、先の巨大地震から 76 年目を迎えた。東北沖の M9.0 の地震は、沿岸部において震度 6 強で 3 分以上揺れ、津波は 8 時間程度でおさまったものの、その結果はあまりに残酷であった。沿岸都市の中の宮城県気仙沼市は津波火災が発生し、地震から 4 時間程度で津波浸水域の幅 4.5km、長さ 2.5km にわたって市街地が炎に包まれたことが当時の映像から見えている。

今年 2 月中旬、石巻市立門脇（かどのわき）小学校に NHK 高知の取材チームとともに現地を訪れた。焼け焦げた校舎の前で、当時の校長で現在「語り部」をされている鈴木洋子さんの話を聞いた。児童と教師たちは、地震の揺れが収まってすぐに校庭に集合し名簿により点呼、すぐに 2 日前の訓練どおり裏山の日和山公園（標高約 50 メートル）に駆け上がった。津波火災が学校の校舎を襲うのは、それから約 50 分後。火のついた車が 1 階の校長室と職員室、教室に流れ込み、続いて校舎の 3 階まで炎に包まれていった。炎が校舎を包み込む前に 224 人の児童と教師たちは命を守った。

このような津波火災から身を守るには津波が来襲する前に避難することが求められる。

一方、近い将来発生する南海トラフ地震でも津波火災が予想され、市街地で周りに高い山がない場所は、耐震化された高いビルに逃げることが推奨されているものの、門脇小学校の例では津波火災の炎は 3 階、一部屋上にも及んでおり、津波に備えて上層

階への避難は、危険性を伴うことを理解しておかなければならない。津波火災の多くは瓦礫に火がつき燃え広がるので、火災発生から炎上域の拡大までに時間があり、津波瓦礫の少ない反対側から二次避難をする冷静な判断が求められる。

東北地方で発生した津波火災は、このほかにも岩手県大槌町や福島県いわき市でも発生しており、垂直避難の限界が見えている。ただし、津波火災から命を守るヒントは多く、門脇小学校でも海側から離れた北舎は南舎が瓦礫をくいとめて延焼することはなかった。

津波火災の出火原因は、瓦礫に含まれる可燃物、特に車の燃料タンクからの漏出、家庭のプロパンガス、着火は車載バッテリーのショートなどがわかっている。それが大規模火災になるのは地震から数時間後に、津波により発生した大量の瓦礫に火がついたからである。市街地では多くのビルがあり、津波火災から命を守るためには津波瓦礫がどの部分にたまりやすいか、具体的な津波シミュレーションが欠かせないことがわかる。そもそも津波の水でなぜ火災が発生するのか不思議に思われる方がおられるかもしれない。それは津波海水の浸漬時間はわずか数時間程度で、木材等の内部までは海水は浸透されにくいと考えられている。中は乾いているので、木造表面を覆った油分によって燃え広がるのである。

2. その昔、宿毛は炎に包まれた

－宝永南海地震で火災旋風に見舞われた街－

津波のために町中が炎に包まれる。歴史記録によれば 300 年前の宝永地震でこの高知の宿毛市でも発生していた。その様子は、土佐藩の高級役人が書き残した「谷陵記」に克明に記述されている（図 1）。その記述は、「火災は天を焦がしながら津波が侵入、火災は車輪ようになって人々が波間に浮き沈むところを襲った」と書かれている。

火災竜巻は大正関東地震（1923 年、M7.9）相模湾を震源とする大地震で多数の焼死者を出したことで知られるようになった。地震の発生時刻は昼時と重なり、多数の出火場所に消防水勢が追いつかず、当時の東京府の下町である現在の隅田区、台東区や葛飾区などでは軟弱地盤で揺れが大きくなった素因も加わり、木造家屋の倒壊により多くの出火箇所が出現した。特に焼死者の多かった本所被服廠跡の広場には家財道具を積んだ大八車が集まり、地震から避難した人々の安堵した様子も映像に捉えられ

ている。その後、地震から数時間後にこの場所を火災旋風が襲う。10万人以上、本邦史上最大の死者を出したこの震災ではそのうち9万人以上がこの火災による死者であった。この中で本所被服廠跡だけで4万人を超えると言われている。



図1. 土佐藩藩士奥宮正明が記した宿毛を襲った津波火災

地震の後、火災が発生と津波浸水の拡大に伴う火災旋風（炎の竜巻）発生の様子が記録された。

出典：谷陵記写本、早稲田大学図書館所蔵。

3. 高知市の津波火災想定と長期浸水

－多くの可燃物貯蔵施設と垂直避難の問題点－

次の南海トラフ地震時に特に懸念されるのが、長期浸水が予想される浦戸湾岸。さらに浦戸湾に注ぐ鏡川、久万川や国分川など津波遡上河川からの越水に伴う津波火災の拡大である。

先述した宮城県気仙沼市、岩手県大槌町や福島県いわき市では、地震後の火災発生は港の一部に限られているものの、その後数時間で津波浸水域全域に広がっていった。多くは漁港の漁船のためのタンクからの油漏れ、津波によるタンクの火災やタンクの流失などが挙げられる。そのほか津波により家庭用プロパンガスが通常は開きっぱなしになっており、地震では耐えた耐圧ホース（100kgの張力に耐えられる）も津波の瓦礫衝突には呆気なく白い気化ガスを噴出しながら津波と共に流されていく様子は宮城県下で見られ、その一部はすでに着火している。流れ出した油分にその後着火拡大する様子も高台からの映像から判断できる。

一方、歴史的な火災旋風に見舞われた宿毛であったが、県内では他に津波火災が懸念される港湾は多くの船舶が停泊する須崎港のほかに、長期浸水が懸念される高知市の浦戸湾岸にある。この地帯は江戸時代から盛り土による人工地盤が形成されて来っており、下部は超軟弱地盤地帯である。これらの地域は広域地殻変動（地盤の液状化の結果ではない）によ

り、地震の揺れの最中の約1分後には2メートル前後下がってしまう。満潮時には海面下になる土地に多くの石油タンクが設置されている。石油タンクの多くは標高（平均海面からの高さ）2メートル前後にありその後、満潮時には1メートルの水深に、津波は8時間にわたって2－3メートルの高さで押し寄せると想定されている。想定によれば、高知港内の津波水位は孕（はらみ）地区の狭隘な地形のため、数波の津波流入のために旧市街の水位は増していき、6－8時間後には最高潮位に達するとされている。また、多くの津波瓦礫が孕地区の北部に滞留することがシミュレーションされている。

東日本大震災当時は、東北沿岸低地の船舶用A重油タンクは津波海水の浮力により、設置面の強度不足も加わり流された。多くのタンクは半分程度の重油量が保管され、空間の多いタンクほど海水の浮力に耐えられなかったと考えられている。現在では、これらの反省からタンク設置面の強度強化、配管強化などが施されてはいるが、停泊船舶の衝突には耐えられそうもない。



写真 宮城県女川港から津波により漂着した石油タンク大津波から46日後、女川町市港内近くにて、2011年4月26日撮影。

終わりに

津波の脅威は11年前の東北の大震災（全体の死者の92%が津波の犠牲者）後、我々は繰り返し見てきた。ところが多くが津波火災に包まれていたことはあまり知らされてはいない。あの震災では、「原発災害」の他にも多くの「想定外」が起きた。津波火災はその「想定外」の1つであったものの、次の南海トラフ地震災害においては語られることは少ないように感じられる。これら状況改善のためには、石油タンク群の高所移設は必要であるが、それには時間が必要である。ただ、人間が作った危険な施設は人間の手によって改善できるはずである。諦めるにはまだ早い。

今回は、津波の河川への遡上についてお話します。

「はじめての森林土木」

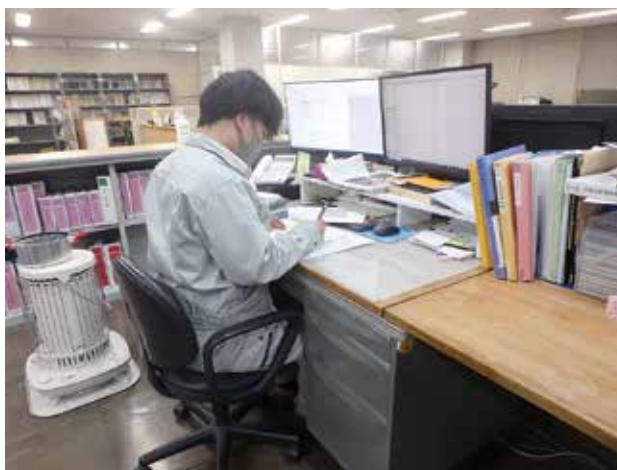
高知県中央東林業事務所 森林土木課 技師 笹岡 亮太

1. 1年の振り返り

令和3年4月に入庁し、早1年が経ちました。もう新採という肩書きがなくなると考えると、寂しくなると同時に身の引き締まる思いです。

私自身、入庁前は町役場に勤めており、主に山の集約化、小規模林家さんへの支援や森林整備に係る事務を担当しておりました。これまでの経験を少しは活かせると意気込んでいたのですが…。環境が変わり、さらに森林土木という初めての業務で、まさに「分からないことが分からない」という言葉がピッタリな1年でした。と言いますのも、普通科出身かつまだ20数年しか生きていない若輩ものですので、暮らしの中で治山ダムや法枠を見ても完成までの過程を考えたことなどありませんでした。

そんな私は「土質って土と岩の2分類じゃないの!? ナンガン?」「治山ダムの4型? 5型?」「根入れ、袖突っ込み?」「間詰とは? 目的は?」「生コンの強度? スランプ? 養生? ってなんだ」「ブガカリ?」、配属になった当初を振り返るとボケとツッコミの一人漫才だったことでしょう。



2. 苦労したこと

今回、森のテクノを執筆するにあたって、担当している工事や技術的なことに触れようかと考えたのですが、まだまだ勉強中の私には説得力に欠けます

ので、感じたことや学んだことをお話ししたいと思います。私のような経験が浅い職員が何に苦労したか、ひとりごとのようなものですが、読者の皆さんに少しでも共感いただければ執筆冥利に尽きます。

まず圧倒的に、知識が足りないことで頭に入ってくる情報が整理できずに苦労したことを覚えています。前述のとおり土木用語がカタカナで聞こえるイメージなので、ざっくりとしたニュアンスは分かるのですが、ちゃんと理解するのに苦労しました。この苦労は当たり前のことですので、自分で調べたり先輩に聞いたりすることで解決するのですが、1番の方法は経験を得ることだと思います。先輩方には、よく段階確認や材料検収に私も一緒に現場へ連れていっていただき、資材の名前や用途、目的などを教えてもらい、少しずつ経験値を得ることができました。「百聞は一見にしかず」、自身で調べたことと現場での経験が結びつき、知識として定着するものだと実感するとともに、無知な部分も有象で視えてくる現場での経験の大切さを改めて学びました。一般的にまだ根付いている、見て覚えろ指導も少なからず必要であることは承知のうえ、足並み揃えて同じ目線で優しくご指導いただいている先輩方には日々感謝しております。



段階確認

3. 森林土木とは

ハード事業である土木工事の合理的な性質には未だに苦勞しているところです。最たる例として、構造物を設計するのにあらゆることに標準的な数値が決まっており、それに準じて考えなければいけないことです。治山ダムで例えれば、「下流のりは堤高 6m 以上は 2 分」「天端厚は 1.5m」「水抜きは放水路天端から 2m 以上離す」などなど、安定性を考慮した数値を元に計算し構造が決まること、設計書作成の積算でも掘削土量やコンクリート数量など工事に係るすべてのものを小数点以下まで明確に数値化することに最初は戸惑ったものの、改めて構造物を設計することの緻密さを感じたことでした。歩掛についても同様で、作業が数値化されていることには大変驚きました。それもこれも分厚い積算必携や県独自の留意事項を確認するかと思いますが、他にも関係課からの通知に記載されているものであったり、初心者の自分は目が回っております。先輩方に聞くと、「それは〇〇課からの通知でこの歩掛使うがで。」とワンミニッツレスポンスで答えてくださるので、毎回すごいなぁと思う反面、頭に入っているのかと思うと少し怖いですね…。自分も早く追いつけるよう愛読書は必携にしようかと思います。



愛読書？

4. 終わりに

1 年間ではまだ森林土木の「し」の字も知らないかもしれませんが、知らないがゆえに楽しみでもあります。

現場もこれからの業務も山あり谷あり、森林土木の奥深さに好奇心を持ち着実に成長できるよう日々研鑽を積んでまいります。

MT車
運転中!!



土木割当ての公用車がほとんど MT 車なのですが、恥ずかしながら私、運転免許が AT 限定だったので、5 年ぶりに自動車学校に通い、AT 限定を解除してきました！

先輩に運転させるわけにはいきません！



テクノ ア・ラ・カルト

－ 名句・名言に潜む「テクノ」－

一般社団法人高知県山林協会 技術専門官 長 澤 佳 暁

耳又は目からはいった情報は、無意識の内に分類され蓄積されます。

記憶だけでなく、業務においても情報の分類は基本とされています。分類することで、より多くの情報蓄積につながり、場合によっては効果的な業務遂行に結びつくからです。

ただ、往々にして記憶は次々と入れ替わり、そのほとんどはストックされずに消え去りますが、ふと記憶の片隅に浮かび上がるものの一つに「名句（名言）」の類があります。

今回は、私のお気に入りの名句・名言からいくつか取り上げ、「技術（テクノ）」との関連についても触れることにします。

(1) 「岩波文庫の名句 365」(岩波文庫) から



この本には日めくりカレンダー的に 365 の名句が集められています。中でも、風刺の中に真理をすどく衝いたものは印象的です。

「下から目線の風刺」である故に奥深いユーモアがあるものから一つ紹介します。

大王が海賊に海を荒らす理由を問うたとき、海賊はすこしも臆することもなく
「陛下が全世界を荒らすのと同じです。ただ、私は小さい船ですので盗賊とよばれ、陛下は大艦隊でなさるので、皇帝とよばれるだけです。」
(アウグスティヌス「神の国」より)

相撲で下位の力士が上位の力士を投げ飛ばすと、スポーツの面白みに加え日ごろの鬱憤も晴れます。

皇帝の問いに対し海賊は「臆することもなく」、「やっていることの本质は全く同じ」との結論を、次に具体的な内容を述べています。この類の名言はよく見かけますが、拍手喝采ものです。

続いて、テクノとは関係ない名言を掲げます。

(2) 「津軽」(太宰治) から

太宰治といえば津軽の豪農出身であり、教科書に「走れメロス」が載っていたことなどで、彼のファンでなくとも身近な存在です。

ある雑誌に太宰の作品では「津軽」が傑作だという記事を目にし、作品集の一冊を手に入れました。



作品は戦時中、故郷・津軽の知人を訪ねて紀行する中で、幼少期から上京前の思い出となつかしい人たちの交流などが書き綴られています。

「ね、なぜ旅に出るの？」

「苦しいからさ」

この冒頭の簡潔で奥深い心理描写はさすがです。次に

名言とされている関連部分を転載します。

「けれども自分の耳にひそひそと宿命とでもいふべきものを囁かれる事が実にしばしばあつたのである。私はそれを信じた。私の発見というのは、そのように、理由も形も何も無い、ひどく主観的なものである。誰がどうしたとか、どなたが何とおっしゃったとか、私はそれには、ほとんど何もこだわるところが無かつたのである。それは当然の事で、私などには、それにこだわる資格も何も無いのであるが、とにかく、現実、私の眼中に無かつた。」に続いて

「信じるところに現実はあるのであって、現実を決して人を信じさせる事が出来ない。」

とあります。

私は、この部分を『真実は主観的であって客観的ではない』と捉えました。

「津軽」は紀行文ならではの明るさがあります。明るさといえば、堅苦しいものが多いベートーヴェンの交響曲の中の 6 番「田園」をイメージします。

その中から名言とされているものをもう一つ。

大人というのは佻しいものだ。愛し合っている、用心して、他人行儀を守らなければならぬ。

この言葉に続いて、なぜ用心しないといけないかの理由の記述があります。

「その答はなんでも無い。見事に裏切られて、赤恥をかいた事が多すぎたからである。」

宮崎駿のアニメ「紅の豚」で、主人公の女の子（フィオ）が飛行艇を設計したことに驚く空賊の子分達に向かって、首領（声は上条恒彦）が「びっくりするんじゃない！世の中、半分以上が女だ。」と恫喝するシーンがあります。

この「津軽」が上梓されて4年後に入水自殺した事実と照らし合わせると、世の中で半々を占める男と女の「距離」の究極の形の一つを太宰流に述べています。

次にテクノにも関連する名句・名言を取り上げます。

(3) 「ものの見方について」(笠 信太郎)



高校生の頃、朝日新聞の天声人語を時々読んでいました。

その天声人語の中に「ものの見方について」の簡単な記述があったことが縁で、高校卒業後その文庫版を早速購入しました。(写真は最近購入の2冊目)

この本のサブタイトル的な名句を掲げます。

イギリス人は 歩きながら考える。
フランス人は 考えた後で走り出す。
スペイン人は 走ってしまった後で考える。

執筆された時代背景を推定すると、第二次世界大戦前後の当事国(特に英国)の対応を比較しながら、戦後日本の進むべき姿を論じています。

諸外国の国民性を「傾向」として捉える場合に、また、業務でちょっとしたプロジェクト(〇〇計画策定業務など)を遂行する上で参考になると思います。

この名句にはアイロニー(皮肉)も感じられ、好きな名句となっています。

ところで、「ものの見方について」にふれたところで、「心で見る」ことについて若干述べてみます。

朝の通勤時、鉄道と道路の立体交差の上から横断歩道を見おろしていました。と、信号機の元を白い杖を頼りに歩く一人の青年に気がきました。目が不自由なため、杖で歩く先を確認しながら少しずつ歩を進めています。

杖の先からの情報だけでなく、当然ながら音、更には身の周辺の風…いわば空気の動きを情報として捉えているということを思い出しました。

翻って、ものの『見方、捉え方』は、視覚、聴覚による情報収集に基づきます。また、得た情報は、経験則として築かれていきます。この経験則は「判断する、処理する」うえで、非常に大きな力になります。

先日、コンサル関係の方との話する中で、最も必要ながら潜在してしまっているものが「直観力(勘)」でないか?ということが共通の認識となりました。

この項での二つ目の名句、といっても私の思いつきですが…。

蓄積された経験則は、やがて「勘」(感性)の醸成に繋(つな)がる。

(4) 「小さな村の物語 イタリア」(テレビ番組名)

これは、BSの民放番組で、内容は『イタリアには長い歴史、幾多の時間をかけた文化、豊穡の大地があるが、なかでも小さな村には格別の魅力があり、この番組では毎回イタリアの田舎の小さな村をひとつ選び、そこで暮らす人々の、気候や風土に生活リズムを合わせ、家族や友人を大切に、心豊かに暮らす、ありのままの時間や日常をカメラに収める。

そこには人間本来の暮らしがあり、多くの日本人が忘れてしまった「美しく暮らす」「美しく生きる」ということが見えてくる。』(ウィキペディアより)となっています。

この番組を見て感心することは、一緒に住んでいる家族は勿論、近傍に住んでいる親戚家族も含め団らんを持っていることがあります。このあたりは、かつての日本の風情を思い出させます。

また、居間、台所の家具類はほとんどが無垢の木で、森林率が高いといえども住宅室内で無垢の木がほとんど隠されている我が国とは趣を異にしています。



一方、ソクラテス、プラトン、アリストテレスなどの古典ギリシャ哲学の流れを汲むローマ・キリスト教哲学の関係でしょうか。

番組で登場する一般の人たちのインタビューにも、哲学的雰囲気を感じられます。

番組中の「鍛冶職人」の物語でのインタビューを紹介します。

「経験が宝さ。経験があれば怖いものなし。不可能なものはないと自分に言い聞かせてきた。どんなことだってやっていける。」

(5) 「山へ帰る道」(國友昭香 著)より

吾北の国友商事の社長さんが「山へ帰る道」と題し、先代の社長さんの足跡と思い出、現在取り組んでいる山茶のことなどを書き綴られています。

本稿の冒頭で触れた「情報」に関して、先代の社長さんの言葉の一部を掲載させてもらい、今回のテーマ「名句・名言に潜むテクノ」を閉じることとします。

「それを判断したり決めたりする時は、情報は多いほど良い。勉強もなしにこれやるのだと突っ走っている人間が多いから失敗が多くなる。」

県立甫喜ヶ峰森林公園から

指定管理者 一般社団法人高知県山林協会 主任 黒津 光世

甫喜ヶ峰の春

つらい花粉症も、落ち着きつつある時期かと思えます。

暖かくなり咲き誇る花たちをご紹介します。



ハイノキ (ハイノキ科)
【2021年4月15日撮影】

スギやヒノキの少し薄暗い森林のなかに、真っ白な花が咲きとてもきれいです。

和名の「灰木」の由来は、木灰を染色用の媒染材に使ったからだそうです。また、別名の「イノコシバ」は、枝が柔軟で折れにくくイノシシ(猪)を縛ったからだとか。大変そうですけど…。

緻密な材は、箒や将棋の駒などに利用されます。最近はシンボルツリーとして、人気だそうです。

秋になると、ハイノキの根元にツチトリモチという真っ赤な卵のような植物が出てきます。これは、ハイノキ属の樹木の根に寄生します。ツチトリモチはハイノキがいないと生きられないんですね。

甫喜ヶ峰森林公園では、水源の森や林道沿いで見ることができます。



カマツカ (バラ科)
【2021年4月26日撮影】

上の写真はまだ花が咲ききってはいません。全部開きだすと、かわいらしい小さな花が固まりになります。図鑑の記載も、「白い花は地味だが清楚で美しい」と。公園内では、歩道や林道沿い所々で見かけます。

名前の由来は、材が丈夫で折れにくいため、鎌の柄に利用されたから。別名ウシコロシの由来は、枝を炙って曲げ、牛の鼻輪を作ったからだそうです。かわいらしい花からは想像もできない名前です。



ツリバナ (ニシキギ科)
【2021年4月27日撮影】

園内所々で見かけます。

長い花柄の先に吊り下がるように花や実が垂れ下がることから「吊花」と呼ばれるそうです。秋には、小さな毬のようなかわいらしい実がぶら下がっているのが見られます。



ホオノキ (モクレン科)
【2021年4月30日撮影】

公園内では、事務所近くの駐車場からゲートへ向かって進む林道沿い、日本の森などで見ることができます。

高くなった木の枝先に、15cm 前後の大きな花を咲かせます。それはそれは見事な花です。木が高くなったので、望遠のきくいいカメラを買ってもらってから、上の写真のように撮影することができるようになりました。香りが強いので、近くに行くと甘い香りがします。

朴葉味噌の朴葉は、このホオノキの葉です。葉も大きく、20～40cm 程度あります。



マルバウツギ (ユキノシタ科)
【2021年5月10日撮影】

花弁が平開するので、オレンジ色の花盤がよく見えるのが特徴です。オレンジ色の輪っかが真ん中にあるように見えます。園内では、歩道沿いで見かけます。

火起こしに使うとよく火が起こるウツギの枝と同様、マルバウツギの茎の髄も中空です。マルバウツギの枝で火起こしをしたことはありませんが…

皆さんもお気づきのようですが、このところ冬だか春だか、気温の乱高下、雨が降り続いたかと思ったら、全く降らない日が続き…花の咲く時期も、早くなったり遅くなったりしています。来園前にお電話でもお問合せください。今回の写真は全て、昨年公園のホームページに掲載したものです。ホームページ等も参考になさってください。

イベント情報

大人気イベント!!
ドラム缶風呂体験

日 時:4月24日(日)
▶1回目:10:00～
▶2回目:13:00～
定 員:各回1家族
(5～6人程度)
参加費:1,000円(1家族)
持ち物:水着、タオル



〈お問い合わせ〉
県立甫喜ヶ峰森林公園
TEL:0887-57-9007

(一社) 高知県山林協会新人職員紹介



業務課 治山第一班 技術員 や の ゆう と
矢 野 夢 斗

土佐市出身
2003年生
高知工業高等学校卒
趣 味:YouTube鑑賞

コメント:社会人として頼られるような人になります。その為に何事も全力で頑張ります。
これからご指導よろしくお願いします。



動 向

令和4年度林野庁公共事業予算決まる

令和4年度政府予算案は、3月26日参議院本会議で可決、成立した。

林野庁公共事業予算は、概要で森林整備事業が1,248億円（対前年度比100.1%）、治山事業が620億円（100.1%）となっている。

令和4年度県予算決まる

令和4年度県予算案は、3月23日県議会で可決成立した。

森林土木事業予算は、林道が20億7千9百万円（対前年度比123.0%）、治山が33億4千4百万円（97.3%）となっている。

高知県山林協会人事異動

高知県山林協会は、4月1日付の人事異動を発表しました。本年度もよろしくお願いします。

採 用

事 務 局 長 二宮 栄一 (新 採)
業 務 課 技 術 員 矢野 夢斗 (新 採)

昇 任

伊野支所 技師 西原 秀和 (技術員)

表 紙 写 真

場 所 香南市香我美町中西川
菜の花畑の「どこでもドア」
写真提供者 西内 晴美さん

第22回 「森や自然についてのこども達の作文 コンクール」小・中学生の作文募集

高知県山林協会では、小中学生を対象にした作文コンクールを実施しています。今年度もみなさまの作品をお待ちしています。

募集要領

1 作文の内容

森や水、自然などについて、あなたが日ごろ思っていることや体験などを作文にしてください。題名は自由ですが未発表のもので、新学年での作品をお願いします。

2 作文の字数

A4判、400字詰め原稿用紙に小学生は2枚、中学生は3枚程度をお願いします。
(応募作品はお返し出来ませんので、ご了承ください。)

3 作文の主題部

主題・学校名・学年・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記して下さい。
(学校を通じて応募する場合は住所の記載は必要ありません。)

4 募集期間

2022年4月1日から**7月15日**まで

表彰等

- ◆賞／山の大賞(山林協会長賞)、緑ふれあい賞、森の応援団賞
- ◆全応募作品を文集「さんりん」に掲載し、また応募者全員に文集「さんりん」と記念品を贈呈いたします。
- ◆山の大賞作品は高知新聞、協会機関誌(森のテクノ)等に掲載の予定です。

送付先とお問い合わせ先

(一社) 高知県山林協会「作文コンクール係」
TEL: 088-822-5331 FAX: 088-875-7191

日 程

4月1日～7月15日	第22回「森や自然についてのこども達の作文コンクール」作文募集
4月27日	都道府県森林土木コンサルタント連絡協議会 理事会・総会(東京都)
5月23日	治山林道四国地区協議会(徳島県)
6月28日	高知県山林協会理事会(高知市)
7月4日～6日	治山林道コンサル技術研修会(東京都)

森のテクノ〈No. 95〉2022年4月15日 発刊

発 行 一般社団法人高知県山林協会

〒780-0046 高知市伊勢崎町8番24号 TEL 088-822-5331 FAX 088-875-7191
<http://www.kochi-sanrin.jp/>